

# 減損倍増、最大の4.2兆円

## 前期車や鉄鋼が巨額計上

日本の上場企業が2020年3月期に計上した減損損失が過去最大の4兆2768億円にのぼったことが日本経済新聞の集計で明らかになった。自動車や鉄鋼などで数千億円規模の減損が相次いだ。新型コロナウイルスの影響が合理的に見積もれないとして減損計上しなかった企業もあり、今期以降も業績回復の重荷になる可能性がある。

## 今期も相次ぐ懸念

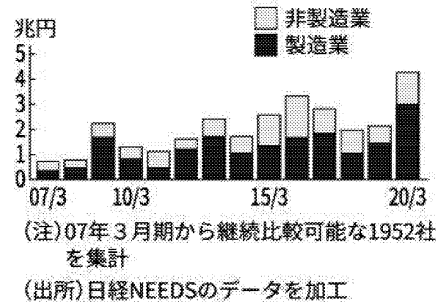
企業財務データベースの円と前の期の2倍強に達した日経NEEDSで07年3月期から継続比較できを更新した。非製造業9の上場企業1952社の20年3月期の減損損失を2886億円と86%増え、減損は前の期に比べて2倍にふくらみ、これまで最大だった16年3月期の3兆3266億円を1兆円近くも上回った。

製造業1007社の減損は合計2兆9901億円で、前期末の固定資産の2・36倍に相当する。リーマン・ショックがあった09年3月期の同1・85%を超えるに相当する。リーマン・ショックがあった09年3月期の同1・85%を超えるに相当する。リーマン・ショックがあった09年3月期の同1・85%を超えるに相当する。

製造業1007社の減損は合計2兆9901億円で、前期末の固定資産の2・36倍に相当する。リーマン・ショックがあった09年3月期の同1・85%を超えるに相当する。リーマン・ショックがあった09年3月期の同1・85%を超えるに相当する。

企業名	減損損失(億円)
日産自動車	5406
日本製鉄	4160
JFEホールディングス	2388
三菱重工業	1793
日立製作所	1369
武田薬品工業	1018
パナソニック	912
三菱マテリアル	550
日立金属	513
神戸製鋼所	499
三菱ケミカルホールディングス	486
住友化学	373
アイシン精機	373
大日本住友製薬	351
味の素	307
NTN	290
村田製作所	276
富士通	276
大日本印刷	265
曙ブレーキ工業	250

製造業の減損はリーマンを上回った



日産自動車は「完成車メーカーごとに工場を設けるなど生産体制の調整が難しい」とサプライチェーンの構造問題を指摘する。パナソニックの95億円、TDKの1812億円、三菱電機の159億円の減損も車載向け機器などが対象になっていた。

鉄鋼は前期に日本製鉄が4160億円、JFEホールディングスが2388億円、神戸製鋼所が499億円の減損損失を計上。ただ「前期の減損にはコロナの影響は入っていない」と指摘する。

日鉄は生産能力を一時的に3割削減するが、橋本英二社長は構造改革について「コロナの問題でなお一層厳しいものになる」としている。想定を超える鋼材の需要減少が続けば追加減損のリスクがくすぶる。

航空機業界では、大量の発注キャンセルに直面した米ボーイングが減産に動き、同社と取引のあり、金融庁や日本公認会計士協会は一定条件の下で柔軟な運用を認めている。川崎重工工業の山本克也副社長は航空分野の需要低迷で「一部で減損の兆候が出ている」と明かす。

足元で世界のコロナ禍は収束せず「第2波」が懸念される。株式市場では「エネルギーや新興国関連を中心に減損が増えるリスクがある」(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の斎藤勉氏)との声もある。

製造業の固定資産には転用や売却の選択肢が限られる大型機械などが含まれる。日本政策投資銀行が8月に発表の見直しだ。

また、減損リスクが高まると設備投資に慎重になりやすい面がある。日本政策投資銀行が8月に発表の見直しだ。